

## 子ども達の楽しい学校生活を願って

人権擁護委員 千葉 史夫

今、子ども達は様々な悩みを抱えており、私たち大人はどのように向き合っていけばよいかを考えていきましょう。

### 子どもの頑張りを認め、褒めること

私たちは、悪いことやダメなことについ目が行き、子どもを叱る場面が多くあります。叱られて奮起する子どもはまれで、子どもの意欲停滞につながります。私は、どんな子どもでも必ず良いところを持っていると信じていますので、その子の良さに気づく親でありたいものです。例えば、テストの点数が下がっても、その中に伸びた教科もあるはず、その頑張りを褒めていくことが次へつながります。子どもは、勉強以外のことも打ち込み、何事にも頑張れるはずで、夕焼けを見て、「お母さん、きれいだね。」と声をかけられ、

ね。よく気づいたね。」と答えてあげると、子どもは喜び、普段の何気ない会話の中から子どもの感性も育ち、親子の信頼関係が生まれます。

### 相手を思いやる気持ちを持つこと

今、社会の進歩は著しく、スマートフォンなど新しい機器が誕生し、便利さと同時にトラブルに巻き込まれ、大きな社会問題となっています。さらに、自分の言動で相手を傷つけてしまうケースもあり、心のあり方が問われています。例えば、相手の人が転んだ「ああ、痛いだろうな」、悪口を言われたら「ああ、辛いだろうな」と思うことで思いやりの気持ちが磨かれます。さらに、いろいろな場でコミュニケーションがとれ、相手の気持ちを考えることが出来る人間に成長していきます。学校は、思いやりの気持ちを育てるためにボランティア

活動、職場体験、老人施設訪問などを行い、子ども達の心を耕しています。家庭でも子どもとの会話を深め、大人への成長を見守ってほしいです。

### 将来の夢や希望を持つこと

家庭では、日常会話の中で折に触れ、「将来どのような仕事に就きたいのか」「将来の夢や希望は何か」など、子どもと話し合っておくことが大事です。特に中学校は、将来への方向性が固まる時期でもあります。その観点で高校を選択する必要もあります。将来への目標が決まれば意欲も出て、成績の伸びも期待できます。私の経験から、中学校時代の進路意識が将来への仕事に結びついている生徒たちが多いです。さらに、勉強以外のことにも興味を広げ、好きな部活動などに打ち込むと自信を持つことができます。そして、他人が何を言おうと、しっかりと生きていける子どもに成長してほしいです。

### 一人で悩まないで相談すること

いじめが原因で不登校に陥り、心を痛めている子ども達が増加傾向にあります。学校は、いじめ調査を実施するなど安心安全に過ごせるよう対策をとっていますが、なかなかゼロになりません。家庭でも、子どもの話に耳を傾け、異変に気づいた時は、すぐに学校と相談することが一番です。そうすると、自分の力で解決しようと少しずつ気持ちを前へ進めることができず、それでも解決の道が難しい時は、人権擁護委員や法務局に相談してほしいです。県内には法務大臣より委嘱を受けた人権擁護委員が270名おり、それぞれの法務局、市町村で人権に関わる相談を受けています。さらに、学校と連携を図り、「人権教室」や「スマホ・ケイタイ安全教室」、小学校へ「人権の花」の贈呈、中学生には「人権作文」などをお願いし、相手への思いやりの心、命の大切さを考えてもらっています。

また、子ども達には一人で悩まないこと、困った時は、身近な信頼できる人に相談してほしいと訴えています。法務局では、次のような相談活動を実施しています。

## プロフィール



千葉 史夫  
(ちば ふみお)

昭和23年 一関市藤沢町出身  
 ▶川井中・宮古一中・上田中(教諭)  
 ▶宮古河南中(教頭)  
 ▶川井中・水堀小・松園中・城東中(校長)  
 ▶盛岡教育事務所教育相談員  
 ▶前岩手県人権擁護委員連合会子ども委員長  
 ▶人権擁護委員

- ▼「SOSミニレター」による手紙相談  
(学校を通して毎年配布)
- ▼「子どもの人権110番」  
0120-007-1110  
(通話無料)
- ▼「女性のホットライン」  
0570-070-810
- ▼「みんなの人権110番」  
0570-0003-1110

私たち人権擁護委員は、子どもからの手紙や電話での相談内容をしっかりと受け止め、その取り巻く状況を見抜き、寄り添い、具体的な行動をアドバイスしています。子ども達が安心して、楽しく暮らせる社会の実現に力を注いでいきたいと思っています。